

横浜市立 岡津中学校 学校評価報告書 (平成28年度)

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①校内授業研や小中一貫ブロック授業研において積極的に授業を公開し、ユニバーサルデザインを意識した「わかる授業」を目指す。 ②小中・各学年における分析チャートや生徒による授業評価を活用して授業改善を行う。 ③学習の習慣化に向けた「個に応じた朝自習」の質的充実を図る。	①ユニバーサルデザインの校内研修を行い、UDの視点を取り入れた授業研を積極的に行った。 ②分析チャートや生徒による授業評価を活用して授業改善を行い、さらなる課題を共有した。 ③学習の習慣化に向けた「個に応じた朝自習」の質的充実を図った。さらに生徒の主体的な学習への取組を検討したい。	B
豊かな心	①道徳や人権教育を充実させ、自己を深く見つめ、より良く生きようとする生きる力の向上を図る。 ②体験学習や地域行事を通して、思いやり心や公共心を育成し、社会の一員としての自覚を高める。 ③子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」をさらに浸透させる。また、確かな人権感覚・意識の向上を図るために人権作文・人権標語作りを全校で取り組む。	①道徳授業力向上推進校として、全校で自己を深く見つめ、より良く生きようとする生きる力の向上を図った。 ②多くの地域行事へ積極的に参加し、地域の方々から感謝の言葉をいただいた。 ③子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」等が生徒全体に浸透しつつある。	B
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図る。 ②健康や安全、環境について意図的・計画的に理解を深め、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 ③小中ブロック交流による部活動体験や運動会へのボランティア活動、地域行事を通して、運動に親しむ資質や能力を育てる。	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図った。 ②健康や安全、環境について理解を深めるために教科以外に講演会等を数回行った。 ③小中ブロック交流や地域での体力向上に関わり、地域全体に寄与した。	A
教育課程学習指導	①新たな中期学校経営方針とそれに伴う改訂した知・徳・体のプランの周知徹底を図り、それに基づいた教育活動の充実を推進する。 ②道徳の教科化を含め、新学習指導要領等について、全教員に適宜情報を提供し、学び続ける教師として研鑽を積む。 ③学習目標(ねらい)や評価を明確にし、UDの視点を取り入れた授業に積極的に取り組む。	①ボトムアップによる新たな中期学校経営方針とそれに伴う改訂した知・徳・体のプランの周知徹底を図った。 ②道徳授業力向上推進校としての道徳教科化を含め、新学習指導要領等について、全校で研修を行った。 ③校内研修を受け、UDの視点を取り入れた授業及び授業研を積極的に行った。	B
生徒指導	①YPAアセスメント等を活用し、生徒理解を深める研修を行うとともに相談活動を充実させ、生徒に寄り添った信頼関係の構築を図る。 ②保護者・地域・関係機関と連携するとともに職員間の報告・連絡・相談を密にし、問題の早期発見・対応に取り組む。 ③学校生活のルールを明確にし、全職員での指導体制を構築するとともにいじめ防止基本方針を周知・徹底し、いじめ根絶に向け取り組む。	①YPAアセスメント研修を行い、相談活動の充実と生徒に寄り添った信頼関係の構築を図った。 ②生徒指導専任・指導部長を中心に保護者・地域・関係機関との連携から問題の早期発見・対応に取り組んだ。 ③いじめ防止基本方針を周知・徹底する中で課題が見え、年度末に見直しを行った。	B
特別支援教育	①特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育推進委員会で配慮を要する生徒に関する理解を深めるとともに支援計画・指導計画による適切な支援を行う。 ②SCや外部関係機関と連携を図り、より適切な支援方法を探る。 ③UDやインクルーシブ教育等に関する研修を行い、職員の理解を深める。	①特別支援教育推進委員会を定期開催し、配慮を要する生徒の理解を深め、支援計画・指導計画による適切な支援を行った。 ②SCや外部関係機関と連携を密に図り、適切な支援を行った。 ③UDやインクルーシブ教育等に関する校内研修を行い、職員の理解を深めた。	B
地域連携	①学校だよりを毎月(年12回)発行し、積極的に学校の教育活動の様子を発信するとともに学校説明会やまち懇、学校HP等により中期学校経営方針等を含め教育活動への理解・協力を仰ぐ。 ②区や連合町内会等の行事や地域活動に、生徒の参加を含め積極的に協力し、連携を深める。 ③5校種の連携事業(音楽発表会)を開催し、自他を大切にす豊かな人間関係の育成を図る。	①学校だよりの定期発行、学校説明会や今まで開催されていなかったまち懇、学校HP等により中期学校経営方針等を含め教育活動への理解・協力を願った。 ②地域行事や活動に、生徒の参加を含め積極的に協力し、連携が深まった。 ③5校種の連携事業(音楽発表会)の開催を行った。	A
人材育成・組織運営	①学年組織と管理職による研修を実施し、経験の浅い職員の育成を図る。 ②研究授業や校内研修を意図的・計画的に実施するとともに打合せ等でも適宜情報を提供し、教師力の向上を目指す。 ③機能的かつ効果的な学校運営を目指し、学校組織及び校務分掌の見直しを行う。	①学年組織と管理職による研修を数回実施し、経験の浅い職員の育成を図った。 ②教職員育成課や方面事務所の指導主事要請を行い、教師力・授業力向上を図った。 ③学校組織及び校務分掌の見直しを行い、次年度からスタートする。さらに検証していきたい。	B
ブロック内相互評価後の気付き	小中連携事業の一貫としての互いの互いの授業研究会の実施が定着してきている。小中それぞれの授業の進め方や児童・生徒の実態について相互理解がより深まり、充実させることができてきた。また、専任を中心とした情報交換、小6と中1の担任による情報交換が行われ、スムーズな接続と効果的な指導に生かすことができてきている。生徒主体の生徒会説明会や部活動体験なども生徒間の交流として定着してきた。ブロック内の課題としては、区、そして方面事務所も違う上矢部小学校との関係である。専任会も泉区に参加するように要請はしたが、区役所との関係や見相との関係からなかなか難しい状況である。		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での生徒の様子や授業見学時の生徒の取り組みを見ると、数年前よりは学校自体が大変落ち着いてきたように感じられる。 ・大きな声で挨拶ができ、とても気持ちがいい。また、地域行事に貢献してもらい、感謝している。 ・英語の少人数授業を見て、英語の歌など「楽しく英語を学ぶ」工夫がなされている。そのような授業を続けてほしいとともに授業力の向上を常に目指してもらいたい。 ・部活動での市総合体育大会男女総合第2位は素晴らしい。地域としても岡津生徒の活躍は誇りに思う。先生方は休みも大きく大変だとは思いますが、指導に感謝している。 ・学校だよりの毎月の発行、今まで開催されていなかった「まち懇」等により、学校や生徒の様子がよくわかるようになった。 ・「岡中の生徒であることに誇りを感じる」と答える生徒が多くなることに期待した。 		
学校経営中期取組目標振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな学校経営中期目標を掲げ、8つの重点取組分野の実現に向けて、『チーム岡中』で第一歩を踏み出した。ボトムアップで取組目標・具体的取組を掲げたことにより教員の参画意識も向上した。 ○重点取組分野の目標をより達成するために、学校組織・校務分掌の見直しを行い、機能的・効果的な学校運営を目指していきたい。 ○学校評価アンケート等で、学校教育目標が生徒・教員ともに把握されていない結果を受け、わかりやすく明確な学校教育目標の見直しを図っていきたい。 		

横浜市立 岡津中学校 学校評価報告書 (平成29年度)

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①校内授業研や小中一貫ブロック授業研において積極的に授業を公開し、ユニバーサルデザインを意識した「わかる授業」を目指す。 ②小中・各学年における分析チャートや生徒による授業評価を活用して授業改善を行う。 ③学習の習慣化に向けた「個に応じた朝自習」の質的充実を図る。	①ユニバーサルデザインを意識した校内研修や小中ブロック研を積極的に、「分かる授業」に取り組んだ。②分析チャートや生徒による授業評価を活用して授業改善を行い、さらなる課題を共有した。③学習の習慣化に向けた「個に応じた朝自習」の質的充実を図り、定着しはじめた。生徒の主体的な学習への取組を一層進めたい。	B
豊かな心	①道徳や人権教育を充実させ、自己を深く見つめ、より良く生きようとする生きる力の向上を図る。 ②体験学習や地域行事を通して、思いやり心や公共心を育成し、社会の一員としての自覚を高める。 ③子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」をさらに浸透させる。また、確かな人権感覚・意識の向上を図るために人権作文・人権標語作りを全校で取り組む。	①道徳や人権教育(人権作文、人権標語等)を通し、全校で自己を深く見つめ、互いの違いを認め、より良く生きようとする生きる力の向上を図った。②多くの地域行事へ積極的に参加し、地域の方々から感謝の言葉をいただいた。③子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」等が生徒全体に浸透しつつある。	B
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図る。 ②健康や安全、環境について意図的・計画的に理解を深め、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 ③小中ブロック交流による部活動体験や運動会へのボランティア活動、地域行事を通して、運動に親しむ資質や能力を育てる。	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図った。さらに部活動のあり方について研修を深めたい。②健康や安全、環境について理解を深めるために教科以外に講演会(含む学校保健委員会)等を行った。③小中ブロック交流や地域での体力向上に関わり、地域全体に寄与した。	A
教育課程学習指導	①新たな中期学校経営方針とそれに伴う改訂した知・徳・体のプランの周知徹底を図り、それに基づいた教育活動の充実を推進する。 ②道徳の教科化に伴う評価の検討を含め、新学習指導要領等について、全教員に適宜情報を提供し、学び続ける教師として研鑽を積む。 ③学習目標(ねらい)や評価を明確にし、UDの視点を取り入れた授業に積極的に取り組む。	①中期学校経営方針とそれに伴う改訂した知・徳・体のプランの周知徹底を図るとともに学習指導要領の改訂に向けた研修を行い、移行に向けた取組を行った。②道徳教科化を含め、新学習指導要領等について、全校で研修を行った。③校内研修を受け、UDの視点を取り入れた授業及び授業研を積極的に行った。	B
生徒指導	①YPアセスメント等を活用し、生徒理解を深める研修を行うとともに相談活動を充実させ、生徒に寄り添った信頼関係の構築を図る。②保護者・地域・関係機関と連携するとともに職員間の報告・連絡・相談を密にし、問題の早期発見・対応に取り組む。③全職員での指導体制を構築するとともに改定したいじめ防止基本方針を周知・徹底し、いじめ根絶に向け取り組む。	①YPアセスメント研修を行い、相談活動の充実と生徒に寄り添った信頼関係の構築を図った。②生徒指導専任・指導部長を中心に保護者・地域・関係機関との連携から問題の早期発見・対応に取り組んだ。③全教職員での指導体制が確立してきたが、いじめ防止基本方針の改訂に基づいて、もう一度周知・徹底を促していきたい。	B
特別支援教育	①特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育推進委員会で配慮を要する生徒に関する理解を深めるとともに支援計画・指導計画による適切な支援を行う。 ②SCや外部関係機関と連携を図り、より適切な支援方法を探る。 ③UDやインクルーシブ教育等に関する研修を行い、職員の理解を深める。	①特別支援教育推進委員会を定期開催し、配慮を要する生徒の理解を深め、支援計画・指導計画による適切な支援を行った。また、特別支援教室を開設し、不登校生徒を中心とした学習支援等に取り組んだ。②SCや外部関係機関と連携を密に図り、適切な支援を行った。③UDやインクルーシブ教育等に関する校内研修を行い、職員の理解を深めた。	A
地域連携	①学校だよりを毎月(年12回)発行し、積極的に学校の教育活動の様子を発信するとともに学校説明会やまち懇、学校HP等により中期学校経営方針等を含め教育活動への理解・協力を努めた。 ②区や連合町内会等の行事や地域活動に、生徒の参加を含め積極的に協力し、連携を深める。 ③5校種の連携事業(音楽発表会)を開催し、自他を大切にす豊かな人間関係の育成を図る。	①学校だよりの定期発行、学校説明会やまち懇、学校HP等により中期学校経営方針等を含め教育活動への理解・協力を願った。②地域行事や活動に、生徒の参加を含め積極的に協力し、連携が深まった。③5校種の連携事業(音楽発表会)の開催が定着している。	A
人材育成・組織運営	①学年組織と管理職による研修を実施し、経験の浅い職員の育成を図る。 ②研究授業や校内研修を意図的・計画的に実施するとともに打合せ等でも適宜情報を提供し、教師力の向上を目指す。 ③機能的かつ効果的な学校運営を目指し、学校組織及び校務分掌の見直しを行う。	①学年組織と管理職による研修を数回実施し、経験の浅い職員の育成を図った。②教職員育成課や方面事務所の指導主事要請を行い、教師力・授業力向上を図った。③機能的・効果的な学校組織及び校務分掌の見直しを行った。さらに検証していきたい。	B
いじめの対応	①全職員での指導体制を再構築するとともに改定したいじめ防止基本方針を周知・徹底し、いじめ根絶に向け取り組む。②校内いじめ防止対策委員会を含め、組織的に生徒一人ひとりの状況について把握し、未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。適切な支援を行う。③社会的スキル横浜プログラムを様々な場面で積極的に活用する。	①「いじめ防止基本方針」の改定を行い、いじめに対する定義の理解や全教職員での指導体制の再構築に取り組んだ。②いじめ防止委員会を中心に状況把握、情報共有に努め、未然防止、早期発見、早期対応に迅速に取り組むことができた。③管理職や専任による社会的スキル横浜プログラムを活用した研修等を行い、意識向上を含め、スキルアップを図った。	B
ブロック内相互評価後の気付き	小中連携事業の一貫として相互の授業研究会(年3回)の実施が定着してきている。小中それぞれの授業の進め方や児童・生徒の実態について相互理解がより深まり、充実させることができる。また、生徒主体の生徒会説明会や部活動体験なども生徒間の交流として定着してきた。ブロック内での課題だった区、そして方面事務所も違う上矢部小学校との児童・生徒指導の情報共有もブロック専任会を実施し、スムーズな接続と効果的な指導に生かすことができるようになってきている。また、ブロック教務主任会による学校経営上の調整も機能してきている。		
学校関係者評価	・地域でも生徒の成長を見守り、学校と連携し、さらにより良い学校づくりを進めたい。一部課題のある生徒はいるが、年々落ち着いてきている。 ・小学校との連携をしていると言え、継続的な不登校生徒がいる中、特別支援教室の開設は生徒たちの為にはプラスである。今後も継続してもらいたい。 ・大きな声で挨拶ができ、とても気持ちがよい。学校としての指導、部活動での指導の成果である。また、様々な地域行事に貢献してもらい、感謝している。部活動指導のあり方について話題になっているが、生徒のためにどうあるべきかをよく考えてほしい。 ・各授業を参観し、昔の授業と違いぶん変わってきたと感じる。学力の向上の為に先生方にも頑張ってもらいたい。 ・学校だよりの毎月の発行、連合定例会での報告等により、学校や生徒の様子がよくわかるようになった。 ・「岡津中学校の学校教育目標が何か知っていますか」「岡中の生徒であることに誇りを感じるか」と答える生徒がもう少し多くなることに期待したい。		
学校経営中期取組目標振り返り	○学校経営中期目標を掲げ、8つの重点取組分野に加え、いじめの対応の実現に向けて、『チーム岡中』で取り組んでいるが、取組目標・具体的取組が形骸化しないようPDCAを活かし、教員の意識をさらに向上させたい。 ○重点取組分野の目標をより達成するために、学校組織・校務分掌の見直しを行ったが、さらに機能的・効果的な学校運営を目指すために再考していきたい。 ○昨年度の学校評価アンケート等でも学校教育目標が生徒・保護者・教員ともに把握されていない結果を受け、来年度わかりやすく明確な学校教育目標の見直しを図っていきたい。		

横浜市立 岡津中学校 学校評価報告書 (平成30年度)

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①校内授業研や小中一貫ブロック授業研において積極的に授業を公開し、ユニバーサルデザインを意識した「わかる授業」を目指す。 ②小中・各学年における分析チャートや生徒による授業評価を活用して授業改善を行う。 ③学習の習慣化に向けた「個に応じた朝自習」の質的充実を図る。	①ユニバーサルデザインを意識した校内研修や小中ブロック研を積極的に行い、「わかる授業」に取り組んだ。②分析チャートや生徒による授業評価を活用して授業改善を行い、学習指導要領改訂に向けた課題を共有した。③学習の習慣化に向け、質的充実を図り、定着を図った。生徒の主体的な学習への取組を一層進めたい。	B
豊かな心	①道徳や人権教育を充実させ、自己を深く見つめ、より良く生きようとする生きる力の向上を図る。 ②体験学習や地域行事を通して、思いやり心や公共心を育成し、社会の一員としての自覚を高める。 ③子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」をさらに浸透させる。また、確かな人権感覚・意識の向上を図るために人権作文・人権標語作りを全校で取り組む。	①道徳や人権教育(人権作文、人権標語等)を通じ、全校で自己を深く見つめ、互いの違いを認め、より良く生きようとする生きる力の向上を図った。②多くの地域行事へ積極的に参加し、地域の方々から感謝の言葉をいただいた。③子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」等が生徒全体に浸透してきた。	A
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図る。 ②健康や安全、環境について意図的・計画的に理解を深め、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 ③小中ブロック交流による部活動体験や運動会へのボランティア活動、地域行事を通して、運動に親しむ資質や能力を育てる。	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図った。さらに部活動のあり方について指導のあり方や休養日の設定など研修を深めた。②健康や安全、環境について理解を深めるために教科以外に講演会・研修等を行った。③小中ブロック交流や地域での体力向上に関わり、地域全体に寄与した。	A
教育課程学習指導	①中期学校経営方針とそれに伴う改訂した知・徳・体のプランの周知徹底を図り、それに基づいた教育活動の充実を推進する。 ②道徳の教科化に伴う評価の検討を含め、新学習指導要領等について、全教員に適宜情報を提供し、学び続ける教師として研鑽を積む。 ③学習目標(ねらい)や評価を明確にし、UDの視点を取り入れた授業に積極的に取り組む。	①学習指導要領改訂に向けた研修とそれに伴う中期学校経営方針改訂を校内研修による検証とボトムアップによる策定に取り組んだ。②道徳教科化を含め、新学習指導要領等について、全校で研修を行った。③小中一貫授業研や校内研修を受け、UDの視点を取り入れた授業及び授業研を積極的に行った。	B
生徒指導	①YPアセスメント等を活用し、生徒理解を深める研修を行うとともに相談活動を充実させ、生徒に寄り添った信頼関係の構築を図る。②保護者・地域・関係機関と連携するとともに職員間の報告・連絡・相談を密にし、問題の早期発見・対応に取り組む。③全職員での指導体制を構築するとともに改定したいじめ防止基本方針を周知・徹底し、いじめ根絶に向け取り組む。	①YPアセスメント研修を行い、相談活動の充実と生徒に寄り添った信頼関係の構築を図った。②生徒指導専任・指導部長を中心に保護者・地域・関係機関との連携から問題の早期発見・対応に取り組んだ。③全教職員での指導体制を確立し、いじめ防止基本方針と虐待防止について、周知・徹底を促した。	B
特別支援教育	①特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育推進委員会が配慮を要する生徒に関する理解を深めるとともに支援計画・指導計画による適切な支援を行う。また、特別支援教室を活用し、不登校生徒等の支援を行う。 ②SCや外部関係機関と連携を図り、より適切な支援方法を探る。 ③UDやインクルーシブ教育等に関する研修を行い、	①特別支援教育推進委員会を定期開催し、配慮を要する生徒の理解を深め、支援計画・指導計画による適切な支援を行った。また、特別支援教室を開設し、より良い環境整備に取り組み、不登校・発達障害等の生徒を中心とした学習支援を図った。②SCや外部関係機関と連携を密に図り、適切な支援を行った。③UDやインクルーシブ教育等に関する校内研修を行い、職員の理解を深めた。	A
地域連携	①学校だよりを毎月(年12回)発行し、積極的に学校の教育活動の様子を発信するとともに学校説明会やまち懇、学校HP等により中期学校経営方針等を含め教育活動への理解・協力を図る。 ②区や連合町内会等の行事や地域活動に、生徒の参加を含め積極的に協力し、連携を深める。 ③5校種の連携事業(音楽発表会)を開催し、自他を大切にする豊かな人間関係の育成を図る。	①学校だよりの定期発行、学校説明会やまち懇、学校HP等により中期学校経営方針に沿った教育活動への理解・協力を図った。②地域行事や活動に、生徒の参加を含め積極的に協力し、連携が深まり、本校への協力体制も強化された。③5校種の連携事業(音楽発表会)の開催が定着した。	A
人材育成・組織運営	①学年組織と管理職による研修を実施し、経験の浅い職員の育成を図る。 ②研究授業や校内研修を意図的・計画的に実施するとともに打合せ等でも適宜情報を提供し、教師力の向上を目指す。 ③機能的かつ効果的な学校運営を目指し、学校組織及び校務分掌の見直しを行う。	①学年組織と管理職による研修を数回実施し、経験の浅い職員の育成を図った。②教職員育成課や方面事務所の指導主事要請を行い、教師力・授業力向上を図った。③機能的・効果的の学校組織及び校務分掌の見直しを行うとともにさらに検証していきたい。	B
いじめの対応	①全職員での指導体制を再構築するとともに改定したいじめ防止基本方針を周知・徹底し、いじめ根絶に向け取り組む。②校内いじめ防止対策委員会を含め、組織的に生徒一人ひとりの状況について把握し、未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。適切な支援を行う。③社会的スキル横濱プログラムを様々な場面で積極的に活用する。	①「いじめ防止基本方針」によるいじめに対する定義の理解や全教職員での指導体制の構築に取り組んだ。②いじめ防止委員会(月1回)を中心に状況把握、情報共有に努め、未然防止、早期発見、早期対応に迅速に取り組むことができた。③管理職や専任による社会的スキル横濱プログラムや虐待防止ハンドブックを活用した研修等を行い、意識向上を含め、スキルアップを図った。	B
ブロック内相互評価後の気付き	小中連携事業の一貫として相互の授業研究会(年3回)の実施が定着してきている。学習指導要領改訂に向け、9年間で育てる子ども像を意識した各教科内研修やブロック教務主任会、ブロック専任会により相互理解がより深まり、充実させることができる。また、生徒主体の生徒会説明会や部活動体験なども生徒間の交流として定着してきた。ブロック内での課題だった区、そして方面事務所も違う上矢部小学校ともスムーズな接続と効果的な指導に生かすことができるようになってきている。		
学校関係者評価	・以前と比較しても、生徒は落ち着いて授業を受けている。しっかり勉強をするという姿勢を身につけていってほしい。また、英語の授業が主体的で活動的で素晴らしい。 ・学校だよりの毎月発行や連合定例会での報告等により、学校や生徒の様子がよくわかりやすくなった。また、地域行事に生徒たちが参加し、地域全体が盛り上がりつつある。連合としても学校に大いに協力したい。 ・連合町内会長の代理で出席したが、懇話会の存在を初めて知った。学校の内部事情をオープンにして改善に向けて外部の意見を求めるのは素晴らしい。		
学校経営中期取組目標振り返り	○学校経営中期目標をPDCAを活かし、十分な検証をもとにボトムアップでの改訂を進めていきたい。また、いじめ防止や虐待防止に向けて、研修を積み、『チーム岡中』で取り組んでいるが、教員の意識をさらに向上させたい。 ○一昨年度・昨年度と学校評価アンケート等で中学校教育目標が生徒・保護者・教員ともに把握されていない結果を受け、わかりやすく明確な学校教育目標の見直しを進めていきたい。 ○2020年度緑園義務教育学校開校に向け、様々な課題を整理し、今後の岡津中学校のあり方を検討していかなければならない。		